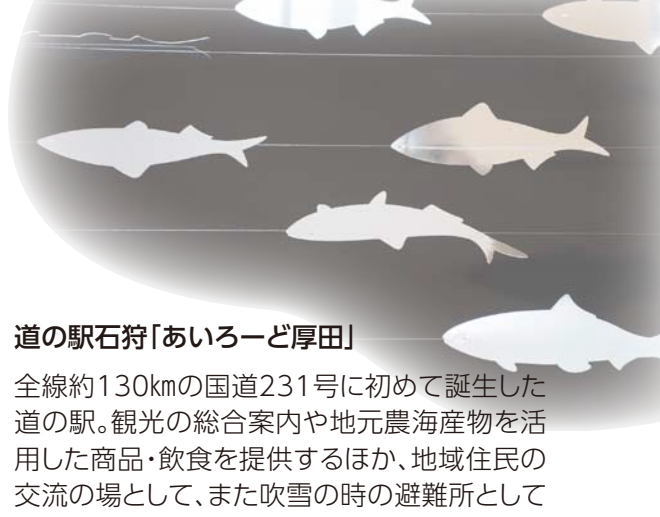


# 広告



## 道の駅石狩「あいろーど厚田」

全線約130kmの国道231号に初めて誕生した道の駅。観光の総合案内や地元農海産物を活用した商品・飲食を提供するほか、地域住民の交流の場として、また吹雪の時の避難所としてなど、その役割は多岐にわたります。

厚田区厚田98-2 固(株)あい風 78・2300  
<http://aikaze.co.jp/>



2階では、にしんのバターやパン、ジェラートなど地元素材にこだわったメニューを味わいながら、日本海の眺めが楽しめます。エレベーターとエスカレーターも設置。

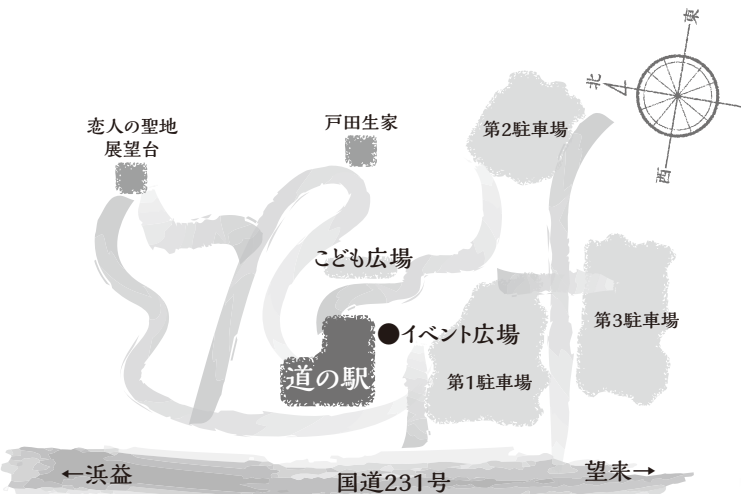


1階には24時間利用できるトイレがあるほか、石狩のものが全てそろったショップがあります。友好都市の沖縄県恩納村と石川県輪島市の産品も並びます。

## 特集

## 道の駅石狩

# 「あいろーど厚田」



道の駅アネックス(飲食テナント) ● 駐車場  
 (旧あいロード夕日の丘観光案内所)



道の駅には珍しい鉄筋コンクリート造り3階建てで、延べ床面積1,333㎡。日本海が眺望できるガラス張りにこだわりました。ちなみに、この角度から見る建物は、航海する北前船をイメージしています。

## 厚田の人々の夢と想いが 〈重点道の駅〉に

平成17年、厚田村が石狩市と合併して自治区「厚田区」になったとき、新たに一つの組織が生まれました。**厚田区地域協議会**です。

地域住民から成るこの組織がまず着手したのは、地域が抱える課題を洗い出すことでした。少子高齢化や人口減少、過疎化などを背景に浮かび上がるさまざまな問題。それらを前に、今度は解決策を模索する日々が続きました。ここから生まれたのがNPO法人あつたライフサポートの会や厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」などの団体です。

それから5年。課題解決を目指す住民団体の数も活動も増えてきたころ、協議会の委員であり、厚田ジャンボツリーを飾ろう会の会長でもあった故・吉田一男さんがある

提案をしました。

「みんなの地域活動も軌道に乗ってきたことだし、その活動の象徴となるような、地域活性化のための拠点をつくってはどうか」

\* \* \*

こうして出来た建物こそ、4月27日(金)にオープンを迎える**道の駅石狩「あいろーど厚田」**です。

しかも全国には千を超える「道の駅」がありますが、「あいろーど厚田」は国土交通省より**〈重点道の駅〉**に選定された道の駅です。それは、地域住民が議論を重ねて導き出した「近説遠来」<sup>きんせつえんらい</sup> 4ページの思想に基づく、地域活性化のコンセプトが評価された結果でした。

石狩発の道の駅としての挑戦が、いよいよ始まる「あいろーど厚田」。新たな地方創生の拠点として期待も高まります。